

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

学校番号 20

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校の教育目標に共感できる保護者は、85%を超え、この目標に向け、学校が努めていることが理解されていると考えられる。また、単に学力だけではなく、健全な身体、豊かな心を含めた人間を育成しようとしていることに対しても肯定的である。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎・基本の定着と学力の向上を図る。 ◇主体的な学習態度の育成を図る。 ◇E S D（持続可能な開発のための教育）に基づく福祉・国際・環境教育の充実を図る。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	企画委員会・教育課程委員会・各教科会・職員会議を通して全職員の意識の向上を図る。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 少人数教育及びきめ細かな個別指導や学習等の特別指導 (2) 習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力がつく授業の実践 (3) 授業評価による授業改善（満足度調査、相互授業参観）やアクティブラーニングへの取組 (4) 広報活動の取組	(1) 生徒及び保護者アンケート、生徒対象の授業アンケート（満足度調査）の結果 (2) 相互授業参観の結果 (3) 授業公開週間での訪問者へのアンケート (4) 補充、追認指導の状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> • 成績不振者に対し補充授業を各考査終了後に行った。習熟度の高い生徒には放課後補習などを行った。家庭学習を習慣づけるために英語・数学・国語において適宜、週末課題などを課した。また、初期指導を行うことで、徐々に生徒の中に時間・期限の厳守が定着した。 • 生徒の実態に応じた習熟度編成（習熟クラス）や授業（数学）を行い、習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力がつく授業を目指した。 • 授業改善においては、年2回の公開授業週間を定め、各教諭が最低1回は、他の教諭の授業を参観に行くこととした。また、生徒に授業アンケートを行い授業改善に利用した。また、アクティブラーニングについては、生徒の学力の向上と主体的な学習態度の育成及び協働的な学習形態の工夫を図りたいと考え、本年度より取り組んだ。 • 夏季休業中の中学生への学校説明会では、例年同様に各部活動・生徒会などの協力により中学生に好印象を与えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 少人数教育及びきめ細かな個別指導ができたか。 ② 習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力がつく授業の実践ができたか。 ③ 他教科の実践が自分の授業実践の向上に寄与したか。生徒による授業評価を改善に生かしたか。 ④ 各種行事を通して、本校の教育活動の広報ができたか。 	<p style="text-align: center;">A B C D</p>	

11 成果 ・ 課題	<p>○習熟クラスを各学年に設けているが、さらに力のつく実践を行うために、昨年度より2年理科系習熟で成績の基準を設けたが、成果があらわれた。</p> <p>○シラバスの公開を行うことで、学習の仕方や評価について新入生に周知でき、効果的な初期指導ができた。</p> <p>▲少人数指導の学習効果をより高められるような授業であるかが問われている。さらに、授業内容・形態については研究を進める必要がある。</p> <p>▲アクティブラーニングについては、今後研究をして充実を図りたい。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>高等学校教育を通じて、『(i)これからの時代に社会で生きていくために必要な、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」を養うこと、(ii)その基盤となる「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」を育むこと、(iii)さらに その基礎となる「知識・技能」を習得させること。』が、「確かな学力」という形で求められている。特に、高等学校教員には、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを重視した教育を展開するとともに、生徒の多様な学習成果や活動を適切に評価することなどにより、これからの時代に必要な資質・能力を身に付けさせ、生徒一人ひとりの可能性を伸ばしていく観点から指導を行う力量が求められている。</p> <p>そこで、本校において取り組むべきこととして、授業改善を行い、授業力の向上に努めることが必要である。例えば、アクティブラーニングによる授業などを研究することで、協働的・互恵的な学び合いを醸成し、高めあう授業の創造を図ることが課題となっている。また、総合的な学習の時間「探究」等を活用し、「福祉」、「国際」、「環境」について生徒に学びの場を増やす。こういったESDの推進により、学びの意欲の向上を図る。</p> <p>大学入試改革に伴い、生徒の学力が幅広く、多様な進路意識を持つ生徒に対応するため、教育課程の研究・検討を行いたい。</p> <p>加えて、予習、復習、宿題のサイクルの定着を、各学年の早い時期に図りたい。これには、自宅学習の意欲を刺激する宿題の内容と量の工夫および点検を工夫することが大切である。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成28年2月12日

【意見・要望・評価等】

- 先生方の個別指導への熱い想いを感じておりますが、少人数教育などきめ細かな個別指導は、池田高校の魅力だと思います。
- 基礎基本の定着とESDに基づく福祉・国際・環境教育の充実は、生徒の力を伸ばすために必要な重要な項目と考えられる。実現をお願いしたい。
- 勉学に対して真剣に取り組める環境があることが素晴らしいことです。
- 基礎から応用へのつながりがあるとよいと考えます。